

中宮展示館周辺で観察されたニホンザルのキノコ食行動の記録

宗 田 典 大

石川県白山自然保護センター

A record of Japanese monkey mushroom eating behavior observed around the Chugu Museum

Norihiro MUNETA

Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa

はじめに

ニホンザル (*Macaca fuscata*) は、草木の葉、果実、種子、そして昆虫類など幅広い食べ物のメニューを持っている動物である。白山のように四季がはっきりしているところでは、季節によって食べられるものは限られ、主食も季節で大きく変化する。(林 1970, 林・水野ら2011)

中宮展示館付近では、周辺を行動圏とするニホンザルの群れがたびたび来訪しており、草木の葉、果実、種子、昆虫類の他にキノコ類を食べる様子が目撃されていた。しかし、食べられているキノコの種類は知られていなかった。

この報告では、中宮展示館付近でニホンザルが食べているキノコの種類及び、ニホンザルがキノコを見つけてから食べる際の行動について観察した結果を報告する。

方 法

中宮展示館の前庭（以下、前庭）にはケヤキ、ブナ、トチノキ、ヤマモミジ、ミズキ、オオシマザクラが植栽され、地面は広く蘚苔類に覆われている。また、そこでは月1回程度草刈り機で除草が行われ、刈りはらわれた草本類は取り除かれ、時折キノコ類が発生している。そこで、前庭をニホンザルの観察場所として調査を行った。

2019年7月21日及び10月13日にニホンザルの群れ

が中宮展示館周辺に訪れる前に前庭に発生したキノコを記録した。キノコの種類は池田 (2013) によった。キノコを食べる様子が見られたニホンザルをデジタルカメラで撮影し (NIKON D50, NikonAF-S NKKOR 18-55mm 1: 3.5-5.6, 及びTAMRON AF70-300 mm 1: 4-5.6), 画像から顔の特徴、性別、子連れの有無、来訪時間等の違い等から個体を識別し、キノコを見つけてから食べるまでの個々の様子を記録した。

結果と考察

観察されたキノコとニホンザルの食行動の有無を表1に示した。

2019年7月21日の天候は曇り、午前9時の気温は約20℃であった。前庭には、5種類のキノコ類が観察された。ニホンザル群れは午前10時ごろ前庭に現れ、10時20分ごろからおおよそ30分間ニホンザル8個体でキノコを食べる様子が見られた (写真1)。前庭に発生したキノコ類のうち、ニホンザルが食べたキノコはアイバシロハツの1種のみであった。アイバシロハツを除く他のキノコ類をニホンザルが食べる様子は直接観察できなかった。また、キノコを食べる様子が見られた8個体のうち、3個体が子連れであったが子供がキノコを食べる様子は観察されなかった。

2019年10月13日の天候は雨のち晴れでニホンザル来訪時は晴、午前9時の気温は約20℃であった。前

庭には、3種類のキノコ類が観察された。ニホンザル群れは午前11時ごろ前庭に現れ、およそ10分間に4個体でキノコを食べる様子がみられた(写真2)。前庭に発生したキノコ類のうち、ニホンザルが食べたキノコは7月21日と同種のアイバシロハツの1種のみであった。また、アイバシロハツを除く他のキノコ類を、ニホンザルが食べる様子は観察できなかった。

前庭に現れたニホンザルは、アイバシロハツを躊躇なく採取し食べる様子がみられた。

澤田(2014)は屋久島のニホンザル(*Macaca fuscata yakui*)のキノコ類の食行動の際、手に取ったキノコに対してにおいを確認する、あるいはかじって吐き出すという「検査行動」とるとされ、検査行動なしで躊躇なく採食するキノコは毒キノコである割合が低く、途中で採食を止めたキノコは毒キノコである割合が高いことを報告しているが、前庭に現れたニホンザルにはこのような行動は見られなかった。

2019年10月13日の調査でも、ニホンザルはアイバシロハツを躊躇することなく採取するなど、7月と同じようにキノコを食べる様子が観察された。

前庭における2回の調査では、キノコは6種類が観察され、ニホンザルは12個体でアイバシロハツを警戒することなく食べる様子が観察された。

このことから、アイバシロハツは中宮展示館周辺の行動圏とするニホンザルの食べ物になっていることが示唆された。

引用文献

林 哲・水野昭憲(2011)白山の自然誌31 新編 ニホンザルの四季. 4. 石川県白山自然保護センター.
 林 勝治(1970)白山周辺におけるニホンザルの生態学的調査-II. 白山の自然. 石川県. 344-375.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑 橋本確文堂. 石川県., 金沢. 398pp.

澤田晶子(2014)霊長類のキノコ食行動-今後の課題と可能性. 霊長類研究Primate Res., 30. 5-21.



写真1 アイバシロハツを食べるニホンザル♀ (2019.7.21)



写真2 アイバシロハツを食べるニホンザル♀ (2019.10.13)

表1 中宮展示館前庭で観察されたキノコとキノコを食べたニホンザル個体数

種名	キノコの発生		キノコを食べたニホンザル個体数	
	7月	10月	7月	10月
ウラムラサキ(<i>Laccaria amethystina</i>)	○			
ザラツキテングタケ(<i>Amanita aspera</i>)	○			
カパイロツルタケ(<i>Amanita fulva</i>)	○			
アイバシロハツ(<i>Russula chloroides</i>)	○	○	8	4
ニオイコベニタケ(<i>Russula bella</i>)	○	○		
ニシキタケ(<i>Russula aurea</i>)		○		
計	6種類		12個体	

種名の配置順は池田(2013)による